



2015年 冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

～被造物全体が苦しんでいます～
福島県「帰宅困難区域」大熊町に見た希望

東日本大震災によって福島第一原子力発電所が事故を起こしてからまもなく5年。過去を「水に流す」性向を持つ日本社会は、まるで事故などなかったかのように忘れ去ろうとしています。しかし、「水に流す」わけにはいかない放射性廃棄物に関しては、解決のない呪いとして覆いかぶさり、被造物全体が苦しんでいます。これらをお造りくださった創造主はどれほど心を痛めておられることでしょうか。

しかし私たちの希望は、このお方が「新しい天と新しい地」を再創造し、「暗闇に光」をもたらしてくださいということです。そして、このお方は、「この地にみこころがなされる」ことを祈りつつ生きるようにと、私たちを選び出されたのです。

今回大熊町をお訪ねしたのは、汚染地域で野生化した牛を集め面倒を見ておられるボランティアSTさんをお手伝いするためでした。家畜小屋で飼われていた家畜の多くが小屋に閉じ込められ餓死し、生き残った者たちは「汚染された家畜」という理由で「殺処分」されたことに心を痛め、STさんは東京から福島に移住を決めたのです。助けられた牛たちが、伸び放題の草を食べ、生態系の健全なサイクルが取り戻されつつあります。そのまま放置されれば荒廃に歯止めがかかる農地を、見棄てられた「汚染牛」たちが保全し、さらには空間線量の減少に貢献してくれている姿がそこにはありました。不条理な現実の中でSTさんや牛たちと出会い、「暗闇に光がもたらされたクリスマス」の喜びを味わい、未来に対する希望の一端を見せていただいたような幸いなひとときでした。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。

* 各カタリストをご支援くださる場合は、振り込み用紙に「神田指定」とカタリスト名をご明記ください。